

The Whisper from Amherst



エミリィのささやき

エミリィの作品の中に、産業革命の進展を象徴するものの一つ、「鉄道」を題材に作られた詩があります。1853年、父Edward Dickinson(エドワード・ディキンソン)の尽力もあって、アマーストとベルチャータウン間に開通した鉄道の完成記念日に、エミリィは汽車を見に行きました。22歳のときのことです。汽車が野山を走る姿を馬に例えて、とても楽しそうに表現しています。

鉄道が開通したことに対する町民の喜びを、エミリィが代表して表現しているかのようです。それまでの異動手段は水路または馬車ですから、入植者は非常に苦労して入植地にたどりつき、そこから出ることなく一生を終える人も多かったと言われています。



‘ I like to see it lap the Miles— ’

I like to see it lap the Miles—
And lick the Valleys up—
And stop to feed itself at Tanks—
And then—prodigious step

Around a Pile of Mountains—
And supercilious peer
In Shanties—by the sides of Roads—
And then a Quarry pare

To fit its Ribs
And crawl between
Complaining all the while
In horrid—hooting stanza—
Then chase itself down Hill—

And neigh like Boanerges—
Then—punctual as a Star
Stop—docile and omnipotent
At its own stable door—

わたしは見ることが好き、それが何マイルも舐めていき—
谷をいくつかぺろぺろ食らい—
水槽で立ち止まって喉をいやし—
それから—威勢のよい足取りで

重なり合う山々をまわり—
見下すように一道ばたの
掘っ立て小屋をのぞき込み—
それから石切り場を削って

自分の脇腹にぴったり合わせ
その合間を這って進み
おそろしげな—かしましい調べで
たえず不平をもらし続け—
それから岡を駆け下り—

「雷の子(ボアネルゲ)」のようにいななき—
それから—星のように時刻通り
自分の馬屋の戸口に
おとなしく堂々と—止まるのを—

